

## 理科の課題（ドリルプリント7・たしかめプリント①②）について

今回の課題プリントをする前に、少し予習をしましょう。教科書のページを広げて、次の説明を読んでから、課題プリントに取り組んでください。

### 花のつくりと分類(1) 【教科書 P.20~23 の復習と P.24~25】

花にとって、もっとも重要な部品はめしべとおしべでしたね

(めしべの中の**胚珠**とおしべの中の**花粉**)

植物の種類にもよるが、  
基本的には、自分の仲間の  
別の花の花粉を受粉したい  
(これを『他家受粉』という)



受粉後、胚珠が**種子**となり、

◎子孫を残す(仲間をふやす)ことができる

◎動けない植物は、仲間をふやすために、  
さまざま工夫をしてきた

これが進化

★受粉するための工夫①

めしへの柱頭がベタベタ  
していたりして、花粉が  
つきやすいようにしている

★受粉するための工夫②

美しい花弁や香り、花のみつ  
などで虫をさそい、花粉を別  
の花に運んでもらう⇒虫媒花  
(理科資料 P.25、教科書 P.23 参照)

★種子ができた後の工夫③

種子のまわりに果実を  
つけることで、できた  
種子を、果実と一緒に  
鳥や動物に食べてもら  
い、遠くまで移動し、  
ふんと一緒に外に出で  
別の土地でも、仲間を  
ふやすことができる

この進化した花を咲かせる植物を

被子植物(ひしょくぶつ)

進化する前の花を咲かせる植物を

裸子植物(らしょくぶつ)

めしへはない

(子房もない)

おしへはない

花弁やみつもない

花弁やみつないので、花粉は虫に運んでもらえない

◎胚珠が子房に包まれている

→種子が果実の  
中にできる



の特徴

◎胚珠がむき出し  
でついている

花粉の入っている  
花粉のうだけある

→果実が  
出来ない  
ので、種子は鳥  
や動物に運んで  
もらえない

# マツの花のつくり



雌花(めばな)  
の集まり

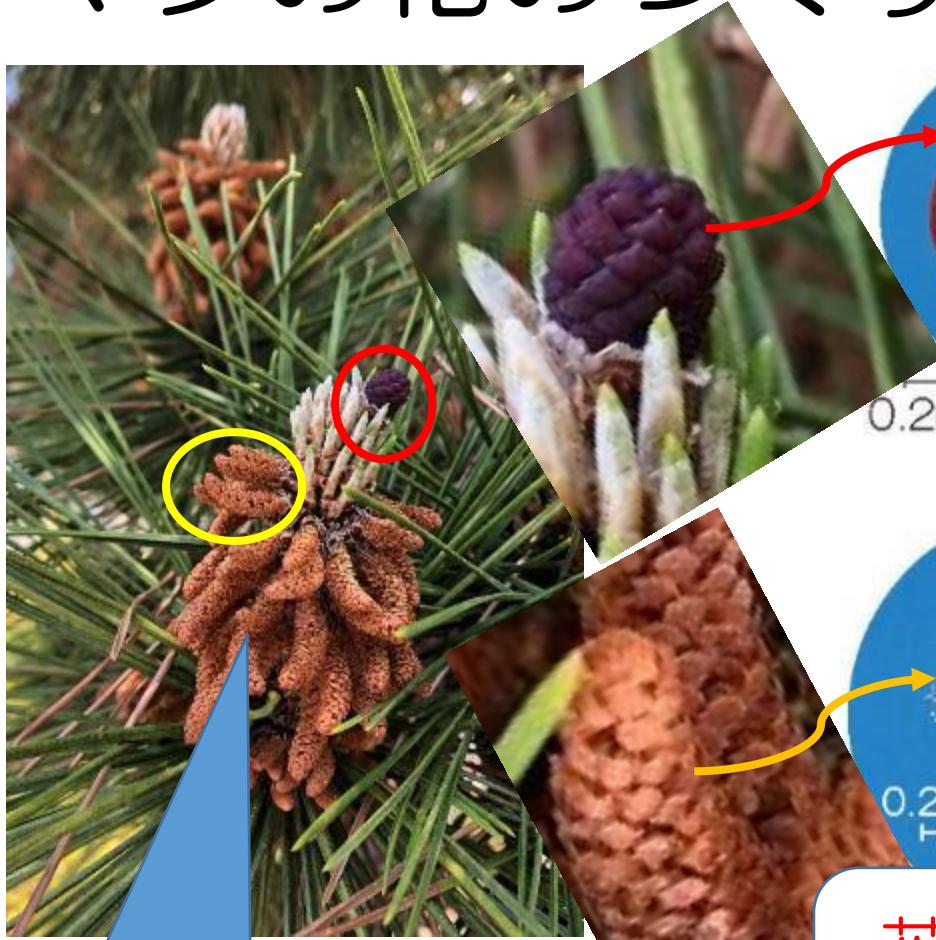
新しい枝の先端  
に咲く目立たな  
い小さな赤紫色  
の花の集まり  
(りん片(りんぺん))



雄花(おばな)の集まり

新しい枝の根元に  
多く咲く茶色の小  
さな花の集まり  
(りん片(りんぺん))

# マツの花のつくり

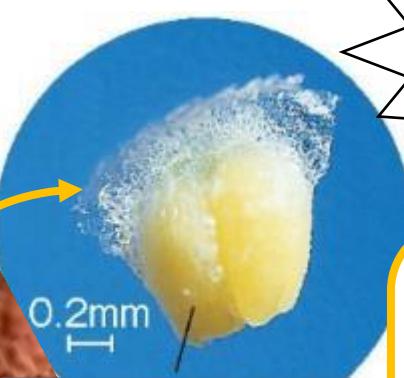


雄花はたくさんできるが、やがて枯れる



胚珠

0.2mm



花粉のう  
(中に花粉)

0.2mm

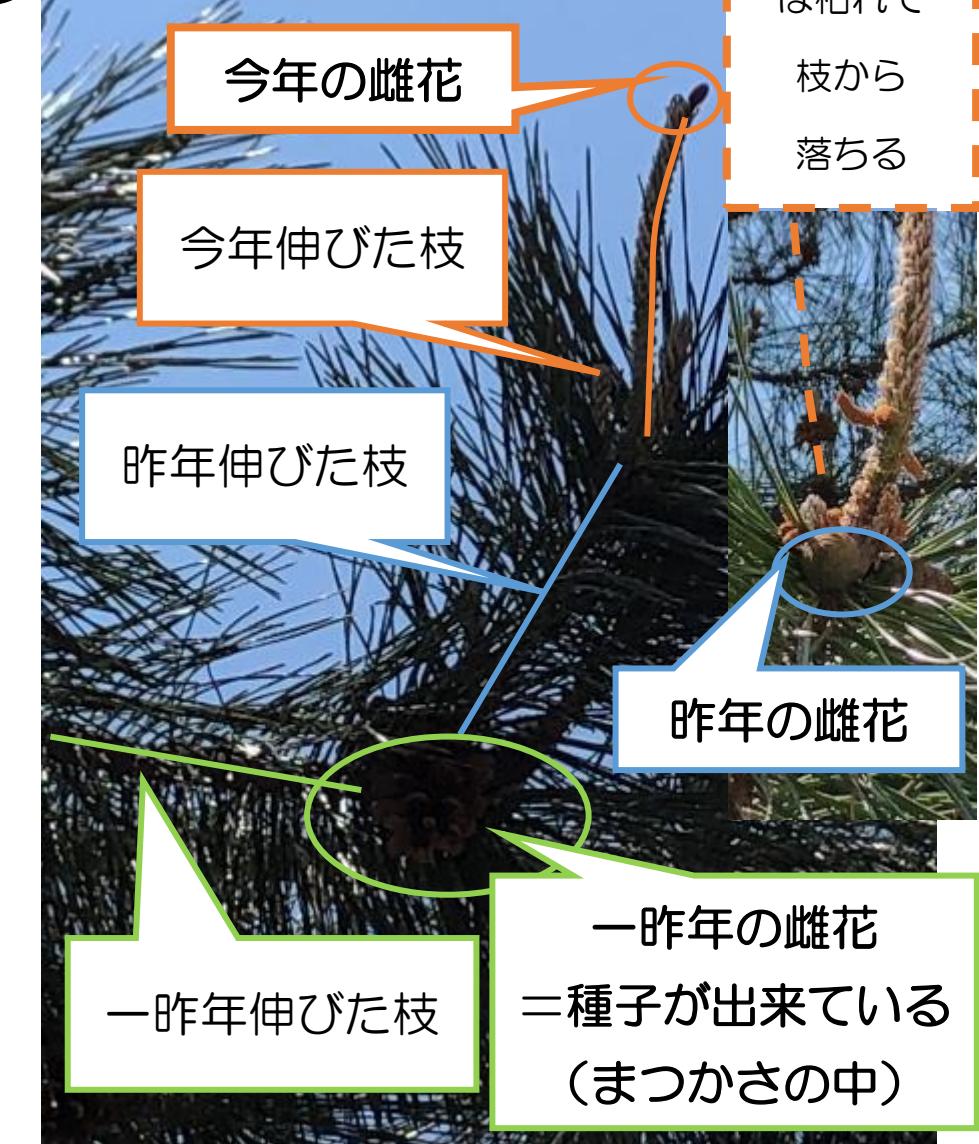
雌花(めばな)の  
1つのりん片の  
内側

受粉後

種  
子

雄花(おばな)の  
1つのりん片の  
外側

# マツの花のつくり



マツの雌花

4~5月頃に受粉すると

(翌年6~7月ごろに受精)

翌年11月頃に種子ができる(約2年かかる)



雌花のりん片の中の  
胚珠が種子になる  
(1つのりん片には、  
2個の胚珠があるので、

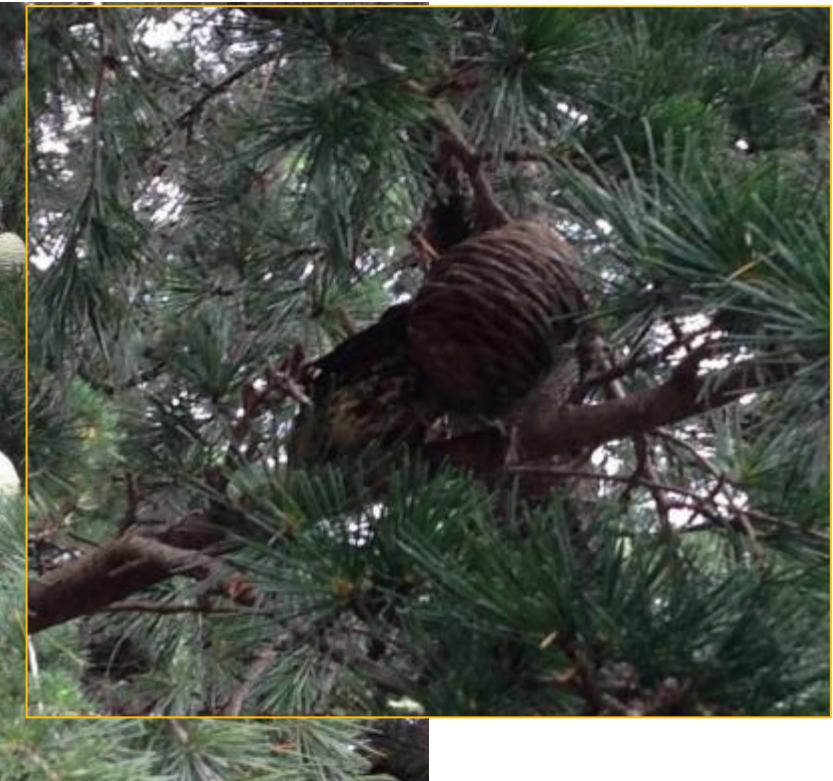
この中に2個ずつ  
種子ができる

\*乾燥した日に、  
まつかさが開き  
風によって  
はねをつけた種子が  
遠くまで運ばれる



これは、たまたま  
飛ばされなかった  
種子がまつかさの  
中で発芽したもの

## 裸子植物(らしょくぶつ)のその他の例



ヒマラヤスギ  
(スギ)

## 裸子植物(らししそくぶつ)のその他の例



ハリモミ  
(マツのなかま)

# 裸子植物(らしょくぶつ)のその他の例



コノテヒバ  
(ヒノキのなかま)



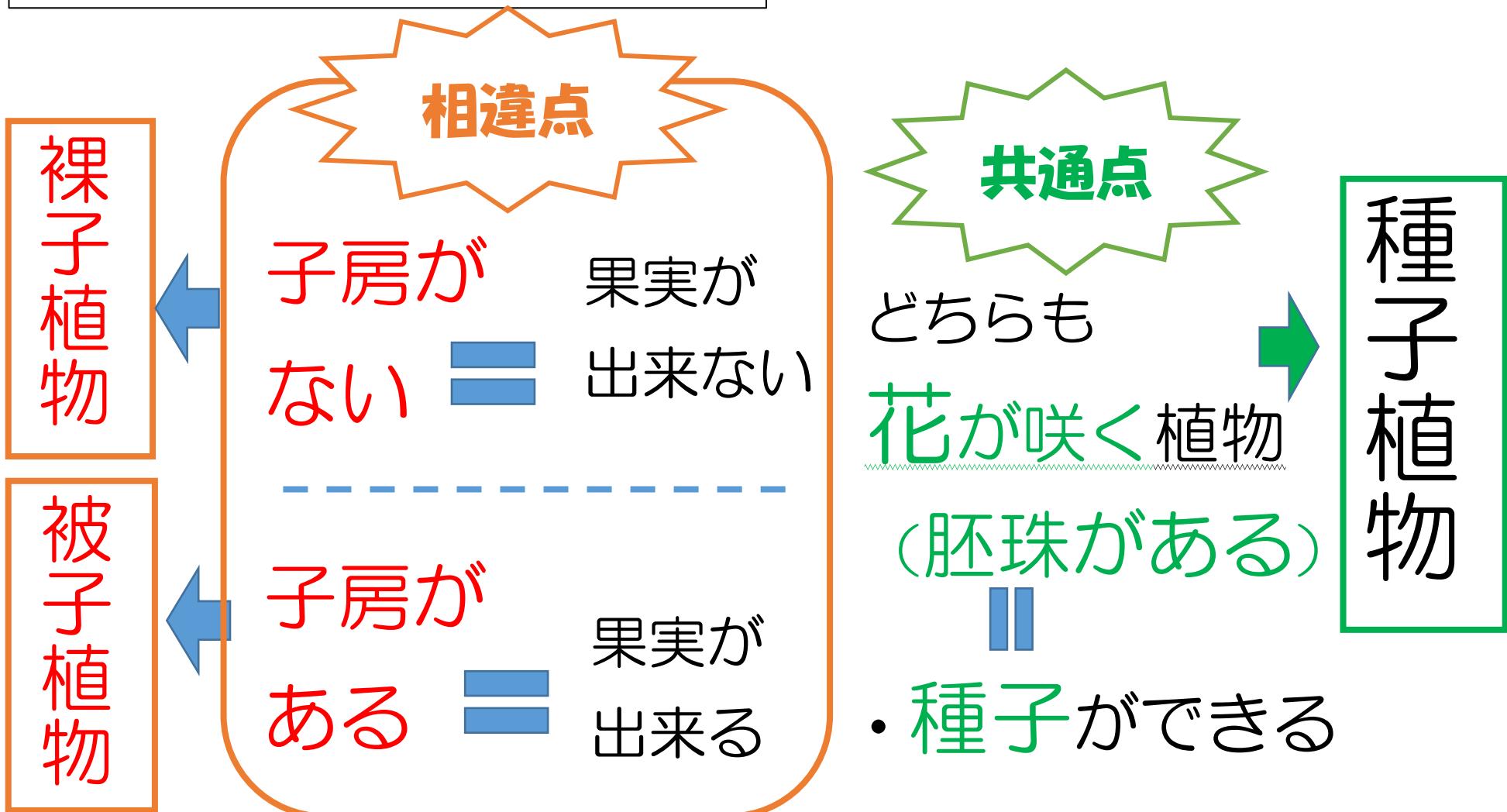
ソテツ  
(これは雌花)

代表的な例  
下の4つは  
必ず覚える  
こと！

【教P.25】

マツ  
スギ  
仔ヨウ  
リテツ

# 花のつくりと分類(1)



Q. 美しい花弁やみつのある被子植物とちがって、  
裸子植物は、受粉するために、どのような工夫がされているだろうか？  
(ヒント：先生は、毎年、花粉症に悩まされています…)

Q. 他の動物のえさとなるような果実をつくる被子植物と比べて、  
裸子植物は、どのような点で進化していないと考えられるか？

考えたことをノートに書いておこう！

では、ドリルプリント7をやってから、たしかめプリント①②、マイノートP.3に取り組んでください。教科書で確認して、漢字も正しく丁寧に書いてくださいね。